

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で利用者本位の理念と目標を作成し、事務所と玄関に掲げサービスの実践に努めている。	開設時に作成された理念は、年度ごとに現状との照らし合わせを行い、今年度も方向性を確認し継続している。職員は文字化した理念を事業所内に掲示し、意識づけを行い日々の実践に繋げるよう努めている。利用者は、生活の中での役割感や地域住民との交流活動を体感でき、理念を具体化された暮らしが送られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方に気軽に参加してもらえらる行事を毎月開催し、回覧板でお知らせしている。地域の方が毎月カラオケに来てくださっている。地域の夏祭りや小学生との交流会に参加している。地域の方から、野菜をいただいたり、庵の畑の世話に協力していただいているなど、日常から交流がある。	事業所よりコミュニティセンターに依頼し始まった、野菜栽培は地域住民の協力のもと現在も継続され、日常の暮らし風景となっている。事業所内の行事は町内会への回覧や運営推進会議にて紹介し、例年多くの地域住民の参加交流が見られるなど地域の一員としての交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に発行している回覧板で認知症やグループホームの説明・情報を載せて地域に発信している。キャラバンメイトとして、市や他法人と共に認知症サポーター養成講座を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はほぼ2カ月に1回開催し、利用者状況・職員体制・サービスの実際を報告したり、避難訓練を見学していただき、ご意見をサービス向上に生かしている。議事録は職員全員で共有し、ご家族にも郵送し、ご意見等をお聞きしている。近隣のグループホームでお互いの運営推進会議に出席する事で、他施設の状況を知り、自施設のサービスの向上につなげる努力をしている。	定期に開催する会議には家族、利用者、民生委員、包括支援センター、コミュニティセンター、近隣のグループホームをメンバーとして広く地域への理解促進を図っている。会議ではサービス等の現状報告や事業所行事の地域協力支援への話し合いも行われる。また、災害避難時の利用者のネームプレート着用など会議で提案された意見は積極的に検討されケアに生かされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に介護保険課と包括支援センターの職員に出席してもらっている。避難訓練の様子も見学していただいている。市が開催する「すこやかともしび祭り」に参加している。キャラバンメイトで市と連携して活動している。	運営推進会議での情報提供や、必要時に随時電話にて相談指導を受けている。また定期的に事業所の回覧、事務書類を提出することで日頃のサービス状況情報を伝えている。さらに事業所行事に参加してもらうなど職員とのコミュニケーションを図る機会も設け、関係性の構築に努め協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は認知症とご利用者の気持ちの理解に努め、見守りながら、抑制することなく援助を行っている。定期的に身体拘束や不適切なケアについて勉強会を行っており、利用者の安全と安心面に配慮した取り組みを行っている。運営推進会議で身体拘束の取り組みについて報告している。包括支援センターに勉強会を依頼している。	施設内研修を年2回実施し、意識向上につなげている。今年度は外部研修も予定している。身体拘束防止委員会を立ち上げ、行動指針を作成中である。拘束になるような言葉使いを職員で話し合い、振り返りを行うことで拘束防止に取り組んでいる。玄関の開閉は自動センサーで拘束感を感じられない。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は認知症とご利用者の気持ちの理解に努め、虐待について定期的に勉強会を行ったり、外部の研修に参加している。閉鎖的にならないように日常から外部の方を受け入れ、市の介護相談員制度も利用している。職員同士認め合い、お互いに手本になるようなケアを心がけている。	虐待防止の外部研修に参加し伝達講習や定期的な学習会にて学ぶ機会を設けている。伝達講習は職員全員が受講するよう記録チェックされ意識向上に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の勉強会を計画し、定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明する内容をマニュアル化しており、分かりやすいように説明している。契約時に不安や要望をお聞きしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員を受け入れ、直接ご利用者の気持ちなどを直接聞いてもらい運営に活かしたり、御家族にも内容をお伝えしている。ご家族が意見を言いやすいように、運営推進会議や面会時に個別にお聴きしている。	家族の要望意見は、事業所行事に参加された際などの面会時や担当者会議において時間を使って伺う機会としている。利用者の要望意見は、職員との日々の関わりの中や介護相談員との面談の場などから、聞き取る機会としている。職員はそれぞれの情報を共有し、運営に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は会議や朝のカンファレンスで話し合い、ケアや業務に反映させている。管理者は職員個々に考えを聞く機会を作り、職員が意見や提案を出しやすいよう努めている。	月1回の職員会議にて職員意見・提案の話し合いを行っている。また、管理者から課題の投げかけや話し合いを提案するなど、日頃から、職員の意見を引き出せるように努めている。施設設備など出された意見要望は上申し、環境整備されるなどケア向上に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの係や担当を決めて実践したり、毎年度始めに自己の目標を立て、年2回達成度を自己評価しながら、やりがいを持って働いている。上司は職員の状況を把握する努力をしている。残業にならない様に職員同士業務を助け合って仕事をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルに合わせて研修を企画し、知識や技術の向上に努めている。他職員の研修報告にも目を通している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加することによって、同業者と交流する事が出来る。地域のグループホーム間でお互いの行事に参加し交流を深めている。近隣の6グループホームで毎年運動会を行っている。また、6グループホーム職員間でも懇親会を行い、交流を図っている。近隣のグループホーム同士で、お互いの運営推進会議に出席し、自施設のサービス向上につなげている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式シートを活用し、本人の思いや生活歴をお聴きして、不安感の軽減に努めている。得た情報は職員間で共有し、同じ対応が出来るよう努めている。あらたに気づいたことがあれば、カンファレンスで話し合い、対応に活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み段階で、施設内を見学していただき、概要や料金等の説明をしている。入居時に要望や不安な事などをお聴きしている。面会時に、お気づきの点やご要望をお聴きしている。行事に気軽に参加していただけるよう声かけをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の要望をケアプランに取り入れている。必要に応じ、医師・看護師・リハビリ職・管理栄養士に相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理・家事を一緒に行い、一緒に生活している者同士として役割を担ってもらっている。畑仕事や草取りを一緒に行い、収穫の喜びを共有したり、花壇の花を觀賞し楽しんでいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加を呼びかけたり、一緒に昼食を食べていただいたり、ご利用者と電話で話してもらったり散歩に出かけたりして、疎遠にならないようにしている。ご家族との外出も提案している。担当者会議に参加してもらい、ケアプランについて一緒に考えている。毎月「晴遊庵だより」で今月のご様子や行事をお伝えしたり、日常の写真をお送りしている。	面会時に家族は事業所内にて昼食を共にし、本人の希望に応じ家族と電話で日々の会話をし、気候の良い季節に家族支援の外出をお便りで案内するなど、家族と一緒に支える暮らしが作れるよう取り組んでいる。さらに、面会時に撮った家族写真を居室内に飾るなど、家族の絆を生活の中に感じとれる環境づくりを行い、より良い家族関係の継続や構築に努めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人友人が気楽に来庵できるような雰囲気作りを心掛け、面会時には、居室でゆっくり過ごしていただいている。利用者がなじみの場所に行きたい時には、御家族と連絡を取りながら、出来る限り対応している。地域の夏祭りで知り合いの人と交流する機会を持っている。年賀状の支援も行っている。	知人の訪問では居室でゆっくり過ごしてもらえよう職員はお茶の提供、写真撮影など笑顔でのおもてなしを心掛けている。また、お盆での墓参りや実家訪問など馴染みの場所への外出は家族の行事参加の折に協力要請を行い実施している。職員と一緒に近隣へ回覧を届けに行くなど馴染みの関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志が楽しく会話できるよう、また、落ち着いた過ごせるようにその時のご利用者の表情や行動に気を配りながら、必要時には職員が介入したり環境を整え、良好な関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の病院や施設に移られても、面会に行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族・ご本人にサービス担当者会議に参加していただき、意向をお聴きしている。意向の表出が困難な方は、ご家族から情報収集したり、日々の関わりから把握するよう努めている。得た情報は職員間で共有し、個人に合わせた対応に努めている。	場所、時間などを工夫し、1対1でゆっくりとした雰囲気を作り、職員から問いかけをするなど本人の思いや意向を引き出せるよう努めている。本人の意向を言葉で把握することが困難な場合は表情などから推測し、やってみたいという気持ちを受け入れケアに反映できるよう検討し実施に努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から情報を集めたり、ご本人の日頃の会話から把握するよう努め、趣味や嗜好などの詳細な面まで利用者に合わせて対応を心掛けている。	生活歴、いままでの暮らし方を家族やケアマネジャーからの情報、入所時の資料情報、そして本人との会話や食事や飲み物の指向など日々の関わりから情報を把握するよう努め、それらを常に統合しながらこれまでの暮らしぶりの把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックとともに、表情や言動からもその日の心身の状態を伺い知るよう努め、記録に残し、申し送って職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリング・担当者会議を行い、課題やケアについて話し合っている。ご利用者ご家族にも担当者会議に参加していただき、ケアプランに反映している。状態に応じて、他職種の意見を参考にしている。利用者の言葉から、その時の状況がわかるようにしている。	利用者の言葉など状況記録から計画に即したモニタリングを行い、利用者、家族、担当者での担当者会議が定期的に行われている。担当者会議では、家族、利用者の意見・意向を確認し、それらをもとに検討された内容が介護計画に反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践やご様子を分かりやすく簡潔に記録し、ご利用者の言葉もそのまま記録している。連絡ノートや看護師連絡帳を活用して職員間で情報共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の状態やご家族の状況の把握に努め、その時必要なサービスを話し合って提供している。併設施設のリハビリスタッフや栄養士に相談しアドバイスを受けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域交流行事で地域の方と交流したり、カラオケボランティアや幼稚園児の訪問、畑作業の協力、スーパーや公共施設への外出など、日常から地域との関わりがある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院に職員が付き添って受診し、受診結果をご家族に報告している。初回はご家族と主治医の顔合わせをして、信頼関係を築いている。ご利用者の身体状況に変化があった時は、すぐ看護師に報告し相談したり、受診したりしている。御家族の協力を得て、以前のかかりつけ病院に受診している方もいる。	母体である医療法人が隣接していることから、本人・家族の希望の下、大半の利用者が同法人の協力医療機関の医師をかかりつけ医としている。他科受診の際は家族の協力を得て受診支援を行っている。また、同法人の病院の看護師が毎日訪問し利用者の健康状態の把握もでき、小さな変化に気付いた時には相談指導を受けることができ本人、家族の安心となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は毎日来庵し、ご利用者の心身状態を把握している。ご利用者の様子で気付いた事があれば、すぐ併設病院の看護師に状態を報告し相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院した時は、安心して治療できるように病院関係者に情報提供している。病状をお聴きして、面会に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に退所基準についてお伝えしている。ご家族の面会時に近況をお伝えし、ご利用者の状態を把握してもらえるように努めている。	入所時には管理者より「重度化した場合の退所基準」他詳細の説明をし、本人家族からの理解を得ている。終末期についても隣接する同法人の医療機関もあることから、その時の利用者の身体状況に合わせて現状に即した対応をしていく事としている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルに沿って対応できるように、急変時初期対応の勉強会に参加し、技術の習得に努めている。	急変時の初期対応については併設病院での研修において全職員が随時参加している。AEDの研修も同様である。さまざまな急変や事故発生時対応の資料はファイルされている。	病院が隣接している事から医療面においては安心感があると思われる。資料もファイル内に用意されているが急変時や事故発生時に居合わせた職員が初期対応を始動できるかという不安が否めない。隣接とはいえ当該職員が慌てずに適切な行動がとれることが求められる。いざというとき職員の誰が見ても対応できるように対処方法を整備されることを期待したい。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼夜想定で避難訓練を行っている。地域の方にも避難訓練を見学していただき、運営推進会議で意見をお聴きしている。消防署通報専用電話機の通報訓練を毎月行っている。今年度は、避難訓練の日に消火器の使い方の訓練も行った。	災害時、緊急時マニュアルは整備されている。火災訓練は年2回昼夜想定で実施していると共に消防署通報専用電話機の通報訓練は毎月欠かさず実施している。避難経路、避難場所は道路を隔てた法人の老健棟となっている。備蓄に関しては昨年度の課題となったことを受け、事業所独自の備えの必要性を伝え検討している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの気持ちを大切に考え、さりげない対応を心がけている。接遇の勉強会に参加し、失礼のない言葉遣いなどについて学んでいる。各利用者の記録や重要書類は事務所で管理している。	法人の実施する接遇研修の中で尊厳とプライバシーについて、また、言葉遣いについても詳しく学んでいる。管理者は事業所内で気になる対応があった場合は自らが見本となり職員の意識を高めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や食事・買い物・室内環境など、細かに希望をお聴きし、出来る限り対応している。ご利用者が自分の思いや希望を話しやすいよう、ゆっくり傾聴している。職員側で決めて押しつけないで、利用者が自分で決められるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課はあるが、一人ひとりの気持ちを尊重し、外出希望がある時は一緒に出かけるなど、その日やりたい事があるご利用者には、出来る限り希望に沿った個別の支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪や髪染めは併設施設の床屋や訪問美容を利用されている。毎日着る服をご利用者自身に選んでもらっている。外出時にお化粧をして出かけられる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好や季節感が味わえる食事メニューにし、食事形態にも気をつけている。ご利用者と一緒に行き物に行き食べ物やおやつ等を選んでいただき、調理や片付けも一緒に行っている。	食事が楽しみとなるよう事業所独自の献立を作成している。また隣接する病院の管理栄養士が毎月2回検食に来庵し、食事に関するアドバイスを受けている。周辺にある事業所の畑は地域の人々の助けも借りながら利用者と共に育て、収穫した旬の野菜が日々食卓に彩りを添える。食事の準備から片づけまでの一連の作業を利用者それぞれに合った役割で参加ができていることで、楽しい時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日分の水分量を記録し、状態に合わせて摂取しやすい工夫をしている。栄養バランスを考えた献立を作り、食事形態については、リハビリ職や栄養士に相談している。管理栄養士から月に2回検食をしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人で上手に出来ない方には、見守りや介助をし、入れ歯は毎日消毒している。年1回歯科検診を受け、希望時は歯科受診している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ介助が必要な方には、時間を見て声掛けしたり、見守りを行っている。失敗があっても、すぐオムツにするのではなく、その日の状態に合わせた介助を行い、日中夜間それぞれの支援をしている。	各居室にはトイレが備えられており排泄面でのプライバシーが保たれる環境となっている。トイレに安全に移動が困難となった利用者には、ポータブルトイレでの自立を図っている。また、夜用のパットで対応するなどして、その人の身体状況に合わせた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトかヤクルトを摂取している。オリゴ糖を入れた飲み物を飲んでもらったり、体操や庵内歩行で体を動かす機会を作ったりするなど、便秘解消の工夫をしている。好みの飲み物をお出ししたり、ゼリーを作ったりし水分摂取量を工夫している。野菜をバランス良く摂取できるようにメニューを思案している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間の希望をお聴きして、ゆっくり入ってもらっている。お湯の温度調整や入浴剤を使うなどして気持ちよく入れるよう工夫している。入浴しない日は下着交換や足浴を行うなど、清潔保持に努めている。	入浴は週2回を基本としながらも無理強いすることなく臨機応変に対応している。特に決め事は作らず利用者の希望や動向を配慮しながら午前と午後を実施している。入浴支援が困難な利用者には足浴や清拭など本人を尊重しながら清潔保持に努め、本人の満足が得られるよう対応している。重度化した際には併設病院等を視野にその都度検討していく流れとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日には散歩したり、日中作業や活動をしていただき、夜間良眠できるように支援している。快適な睡眠環境になるように室温調整を行い、危険な状況が無いかに巡視している。眠れないときは、無理に寝させるような対応はせず、一緒に過ごすなどしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに処方箋を綴じ、いつでも処方内容を確認できるようにしている。薬箱に薬の形態と数を表記し、仕分けた薬は二人以上で確認している。内服がちゃんとできているか、飲み込むまで見守りしている。薬については薬剤師に相談したり、症状の変化があった時は、すぐ看護師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に応じて役割を持って頂き、作業後は感謝の気持ちをお伝えしている。調理や日常の家事・園芸作業などが、その方の楽しみや役割になるよう支援している。買い物や外出の機会を作り、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物・外出などの希望がある時は、職員が付き添って個別に出かけている。ドライブや外食の行事で遠出する事もある。小学生との交流会や地域のお祭りに呼んでいただき参加している。ご家族には出来る範囲で外出の協力をお願いしている。	お天気が良ければ日々外に出て散歩がてら野菜の収穫をしたり花を摘んだり、法人の売店に足を運んだり、恵まれた自然の環境をフルに活かしている。広いテラスでは長岡花火を全員で見たり、また地域の行事や作品の展示などに参加している。また、6グループホーム合同の運動会も開催している。個別では墓参りやドライブ、外食にと楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に家族の了解を得て事業所でお預かりしている。買い物時には自分で支払いできるように支援している。自分でいくら所持し、売店で買い物をされる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話があるので、自由に電話をかける事ができる。希望があれば職員が電話をかける手伝いをしている。ご家族や友人に手紙や年賀状を出す支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	吹き抜けの共有スペースは広々としていて、明るく開放感が感じられる。花壇や畑で育てた季節の花を飾ったり、ご利用者と一緒に作った作品を飾ったりしている。畑で野菜を栽培して、季節を感じられるようにしている。ご利用者の好みの音楽を流したり、リラックスできるような空間作りをしている。	共用スペースは、開放感を感じる吹き抜けの天井や市内を一望できる広い窓によるゆったりと飽きのこない癒やしの空間になっている。広い中にも、ちょうど、腰を下ろしやすい畳の場所やソファも複数点在し、思い思いに寛げる居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやたたみスペースがあり、いつでもご利用者自身が好きな場所で過ごせるよう見守っている。自由に本やアルバムを見たり趣味を楽しんだりできるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が安全でかつ使いやすいように家具を配置し、快適に過ごせるよう工夫をしている。好みの物やなじみの物を持ってきてもらったり、自分の作品やご家族との写真を掲示するなどして居心地が良く過ごせるようにしている。	居室の窓も大きく明るく景観が良いものとなっている。トイレ、洗面台が完備され収納庫やベット、テーブル、テレビは備え付けで設備が整っている。本人の希望で持ち込みは自由となっており、それぞれ思い思いの写真や手作り作品などで飾り付けもされ、居心地良く過ごせる居室となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレに必要な目印をつけたり、家具の配置を工夫したりして、安全に移動できるよう環境整備に努めている。		